

2023年度 織田製菓専門学校 自己評価報告書

作成日 2024年4月1日

はじめに

2023年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亘る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。

本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 学生自らが学ぶ姿勢を引き出す。

目標 製菓に関する技術と知識の習得及び社会人としての常識を兼ね備えた人材を育てる。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

・毎日の実習で技術を向上させ、さらに選択科目を各自が将来の就職を見据え、選ぶことで授業への意欲が高まるよう取り組んだ。

1. 教育理念・目標

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	業界で活躍している現役のパティシエ・ブーランジェを講師に迎え、具体的に取り組んでいる。	今後もこの姿勢を継続していく。
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	3つのポリシーはWEBサイトにて公開している。	内容を毎年アップデートしていくことが肝要である。
コメント			
特になし。			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	教育理念・目標に沿った運営をしている。	時代に沿った教育理念への見直しも必要。
外部関係者の評価を有効に活用できたか。	4	引き続き3つのポリシーの広い周知を目的とし、WEBサイトにて公開している。	いただいたご意見に関しては可能なものから積極的に検討する姿勢を続けていく。
カリキュラムや学習環境が正しく機能しているか検証・見直し、修正されたか。	4	今年度感染者は出たものの、ワクチン接種の案内や感染症拡大防止に関する指導を行った影響か、休校するほどの感染者は出なかった。	今後もこの姿勢を継続していく。
選択科目について、時代に合わせた内容に変化させ充実を図ったか。	3	次年度から実習をメインとし充実化させるべく改訂を進めた。	改訂したカリキュラムにのっとり、適切に指導したい。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	クラウドワークフローシステム等が整備されている。	学内システムを使用しての申請書類提出や稟議提出などは問題なく機能している。
<p>コメント</p> <p>学校行事なども無事実施でき、学生間の交流が増えた。今後も社会情勢に目を配り、その時々によって必要な対応を心掛けたい。</p>			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	教育理念を基本としたカリキュラム編成がなされている。	今後もこの姿勢を継続していく。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	今後もこの姿勢を継続していく。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	業界で活躍する現役のパティシエ・ブーランジェを講師に迎えることで、実践的な職業教育を実施している。	今後もこの姿勢を継続していく。
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	職場実習の代わりとなる製造販売実習を通じて、実際のお客様を相手に商品を提供している。	今後もこの姿勢を継続していく。
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	各期末のテストだけでなく、授業内での到達テストや学内コンクールを開催することで学生達の技術の進歩を評価する機会を設けている。	特になし。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。成績表などを学生に情報共有している。	特になし。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	様々なセミナーやコンクールを紹介した。若手を中心に研修に参加し、効果をあげている。教員1名の作品がジャパンケーキショーで受賞した。連続の受賞となった。	今後も若手の技術と知識の発展に繋がる機会を積極的に設け、更なる充実を図りたい。
コメント 休校がなかったため、予定通り実習を行うことができ、学生の満足感が高かったのではないかと考える。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	奨学金制度は要項などが届くたびに、学生達に紹介した。	特になし。
教育支援の充実化は図れたか。	4	実習指導の教員は授業終了前に必ず質問があるかを学生に尋ね、放課後、質問のあった学生に対しての指導を行っている。	より学生が質問しやすい環境作りに努める。
就職支援の充実化は図れたか。	4	求人の募集が多く、学生の意識も高かったため、10月には100%近い学生が内定を得ていた。	学校側でできる最大限のサポートは引き続き行っていく。
コメント 特になし。			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	4	退学者は0名だった。学生と教員間の密なコミュニケーションが功を奏したと感じている。経済的に困窮している学生もいなかった。	今後もこの姿勢を続け、もし経済的に困窮している学生が居た場合は、適切な公的奨学金の案内に努めたい。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	専用のメンタルヘルス相談窓口を設けている。また、提携機関のチラシ配布および関連機関から送られてくるポスターの掲示を行った。	各サポートがどれほど学生に利用されているのかを把握する術を検討する。
卒業生への支援体制はあるか。	4	卒業生に対しても転職の相談や求人情報の提供を行っている。	特になし。
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	授業を通じて得た情報については教職員間で共有をしている。	特になし。
保護者との連携は適切だったか。	4	学生要因ではあるが、遅刻や欠席は少なかった。一方で、保護者に相談する体制は引き続き整えている。	この姿勢を継続していく。
<p>コメント</p> <p>メンタルヘルスに関する問題について、相談窓口は提示しているものの、利用実態が共有されないために学校側で把握しようがない面もある。</p>			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	WEBを活用した就職・転職支援を行っており、在校生卒業生問わず利用可能となっている。また、卒業生が勤務している企業やお店の求人を受け入れている。	特になし。
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	新実習棟の完成から数年が経つが教員、学生、全員の努力で問題なく使用できている。防災も水、食糧など備蓄品の確保もされている。	特になし。
<p>コメント</p> <p>留学生の就職については学校としては対処のしようがない。一方で、就職が決まった留学生もおり、採用の動きは以前よりも活発だと感じる。</p>			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
OC参加者の増加は達成できたか。	1	参加者数が大幅に減ってしまった。	資料請求からのオープンキャンパス参加者数の増加が課題である。
OCからの取り込み率は向上できたか。	1	取り込み率は横ばいである。	本校に親和性の低い参加者の対応に追われてしまうことが一因にあると考える。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	広報の意向を汲み取り、改善ができる部分を協議の上、訴求ポイントを詰めることができた。	もっと客観的なデータを用いたうえで広報とは協議を重ねる必要があると考える。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	3	毎月送るDMについても入学案内と訴求内容を一貫させている。	年度の途中であっても適宜広報物に関する意見交換を広報側と図りたい。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	2	話し合う必要がある際には、広報担当者が職員室に訪れ、情報共有を行っている。	タイトなスケジュールで動かざるを得ないこともあるので、もう少し余裕を持ったスケジュール調整を互いに心がけたい。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	3	OCの参加者の志望度など最低限の情報共有は出来ている。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	参加者への対応は学生・教員で班に分かれ、丁寧に対応している。学生は当日、学校の授業の様子や実習内容を参加者に話してくれている。	反応の薄い参加者もいたが、最大限丁寧な対応を引き続き心掛けていきたい。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	引き続き、作ったお菓子を持ち帰りたいという声が多かったため、お土産になるような体験メニューも増やした。	持ち帰り可能なメニューについては、安全面と衛生面に配慮し、可能な限りニーズに応えていきたい。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	インスタグラムを活用し、外部の人々に学校を知ってもらえるように努めている。	SNSをより活用し、認知の幅をさらに広げていきたい。
<p>コメント</p> <p>オープンキャンパス参加からの取り込み率の低下については、今年度の反省点を今一度見直し、次年度は上昇するように努めていきたい。また、資料請求からのオープンキャンパス者数増加に努めたい。</p>			

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	4	全員で学校の収支状況を共有し状況が悪いことは全員自覚している。学生数を増やし支出を抑える意識を持っている。無駄が出ない範囲での発注、省エネに取り組んでいる。	原材料価格高騰の影響が出ているが、教育の質を落とさないように努めている。この姿勢を継続していく。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行った。	具体的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような空気の醸成に努めたい。
コメント 特になし。			

9.法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	法人に「コンプライアンス規程」を明文化している段階にあり、策定後に教職員間に意識の共有した。	今後も社会情勢に合わせ、明文化した内容を見直し、必要に応じて改訂していく。
自己評価の結果を公開しているか	4	自己評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
コメント 今後も財務情報や自己評価報告書等学校情報について公開していき、適切な学校運営を継続させていく。			

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	4	学内併設店舗にて一般向けの販売を行っている。また、同店舗が中野区食品ロス削減協力店に登録された。中野アールブリュット展、学園祭でのJR駅前特別販売などを行った。	今後も機会があれば積極的に参加していきたい。
コメント 「パティスリー・オダ」での製造販売実習やクレープ販売を行うことで、「中野」の知名度を上げ、社会貢献、地域貢献は十分できている。ただ、私たちの認識は「地域の方々に学生が温かく育てていただいている」というものである。			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	2	留学生のオープンキャンパス参加は少なかった。	広報スタッフの日本語学校への訪問から繋がる参加者に期待したい。
コメント 留学生担当との連携をより強化していきたい。			

おわりに

今年度の大きな実績としては2つある。ひとつ目に退学者数が0であったこと。学生要因もあるが、適切なフォロー体制が整っており、柔軟に対応できたと感じている。ふたつ目に就職率が希望者に対して100%かつ、早い段階から達成ができたこと。次年度以降も今年度の実績を繋げていけるように励みたい。

オープンキャンパスについては、実施内容を今一度見直すことで次年度は取り込み率の向上に力を入れていきたい。特に資料請求からのオープンキャンパス参加者数増加は喫緊の課題である。学校と広報で連携し、より多くの入学生の獲得に努めたい。